

1月の星空まっぴが

【1月中旬 午後8時頃に見える星空】

2026年、新しい年の「始まり、始まりー!」。お兄ちゃん、新年最初の星空ってどんな風に見えるの? 明るい星がたくさんあって、賑やかなんだよね。ホミリー、早く見たい!

冬の星たちも、きつとホミリーを待ってるよ。冬の星空は、明るい星がたくさんあるし、よく見ると赤や黄色や白色など色の違いに気が付くよ! さあ、そんな冬の星たちに会いに行こう!

カラフルに彩られた

輝く冬の星空!!

東の空に目を向けてみよう。明るい星がたくさんあるのがわかるよ。冬の星たちの世界だ。そこには、星(恒星)の世界で一番明るい1等星、2等星、3等星も合わせると30個以上あるんだよ。みんなも、自分の目で数えてみよう。

さて、その7つの1等星を結んでできるのが、「冬の大三角」や「冬の大六角形(冬のダイヤモンド)」。これらの1等星を見つければ、そこに冬を代表する6個の星座を見つけることができるよ。まず、三ツ星と呼ぶ星並びを見つけよう。その周りを取り囲む4つの星などを結んでいくと狩人「オリオン(座)」の姿がイメージできるよ。残る5つの星座は、オリオン座から時計回りに冬のダイヤモンドの1等星をたどって見つけていこう。そして星の色の違いも観察してみよう。

N北

2026.1

星爺(ほしじい)

新年幕開けは、ここに挑戦!

しぶんぎ座流星群を見よう!!

しぶんぎ座流星群は、3大流星群の一つで、新年最初の夜空を飾る天文イベント。昨年末にはふたご座流星群があったけど、皆さんは、観ましたか?

しぶんぎ座流星群の特徴は、活動期間が短く極大日も数時間と短いこと。でも、流れ星の基になる塵(ちり)などが地球大気に飛び込む速度が遅く(40km程度)、流れ星の見かけの速度も遅くなることから、流れ星観測はしやすいとのこと。

極大日(時刻)は、4日午前6時頃とのことなので、未明から明け方が見ごろになります。ただ、お月さまが一晚中ふたご座あたりに輝いていて、眠るので、東の空を中心に目を向けてみよう。早朝はつらいけど、眠れ目をこすりながら、頑張ってみよう。星観察に挑戦してみよう。

*「しぶんぎ座」と言う名称は、100年ほど前、星座が88個に整理統合された時点で廃止されたが流星群の名称で残っている。

(出現期間は、1月1日~1月6日)

「12」と言う数字の謎?!

新年を迎えて、また1年12か月が始まるね。この12と言う数字、この他にも身の回りにいくつもある。どうしてだろう? 時計は1周12時間、1ダースは12個、干支の動物は12匹等々。星空にも当然ながら12の誕生星座...。これは、月が地球の周りを1年でほぼ12回周ることに古代の人々が気づき、やがて、12と言う数字に特別の意識を持つようになったことに由来しているとか。「へー」の一言です。

【星空まっぴの見方】

南の空を見上げる時は「南」を下にして、北を見る時はまっぴがを「さかさま」にして「北」を、同様に東の空は「東」、西の空は「西」を下にして見上げてね!

- ◎ 1等星以上
- 2等星
- 3等星
- 4等星以下

南 S

【黄道】
天空の星座の間を移動する太陽の見かけ上の通り道

